

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 曾根 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

#### 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

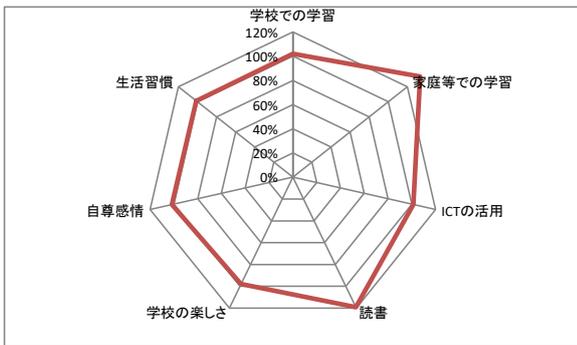
#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	書くこと、読むことの領域について正答率が高い。無回答の割合が低く自分の考えを回答しようとする児童が多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	物語を読み、登場人物の気持ちや相互関係に着目して物語の全体像を想像する。	上回っている
	努力が必要な問題	漢字を文の中で正しく使う。漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。	

算数	全体的な傾向や特徴など	数と計算、図形の領域について正答率が高い。無回答の割合が低く自分の考えを回答しようとする児童が多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみる。	上回っている
	努力が必要な問題	果汁が含まれている飲み物の量を半分にした時の果汁の割合を出す。示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する。	

理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」を柱とする領域の正答率が高い。実験器具の名称や扱い方を身に付けている児童が多い。無回答の割合も低い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ。	上回っている
	努力が必要な問題	鏡を操作して反射させた日光を対象として、光の性質を基に、反射させた日光の進み方を考える。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	家庭での学習の習慣がついており、自分で計画を立てて勉強をすることができている。
○	1日当たり1時間以上読書をしている児童が20.5%、また読書が好きと回答している児童が87.2%である。
○	学習の中でPC・タブレット等のICT機器を使うのは勉強の役に立つと97.3%の児童が思っている。
○	自尊感情については、全国平均を上回っている。
▲	他と違う意見をもつことに消極的な児童がいる。
▲	携帯やスマホを使用する時間が長い。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・学習した内容を他の授業や日常生活で生かすことを意識できるような指導。
- ・生活の中で感じた疑問について、これまでの学習から解決していく力をつける指導。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・SNSや動画視聴の時間について見直すため、体や生活への影響についての学習や時間を決めるなどのルールづくりに取り組む。
- ・それぞれの考えが認められる学級経営及び、自分の考えを交流する場のある授業。